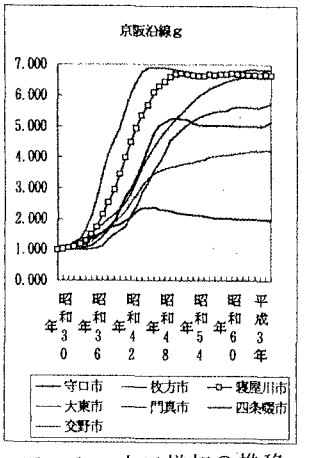
Ⅳ－216　高度成長期の人口急増都市：寝屋川市

摂南大学　正員　枝村俊郎

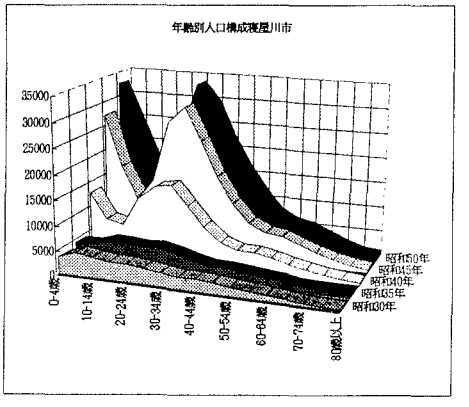
寝屋川市は、大阪市の北東，京阪電鉄沿線にある人口257137人（平成５年）の都市である．いわゆる高度成長期の人口の大都市集中時代，すなわち、昭和３５年から５０年の１５年間に人口は，３万８千人から２５万４千人の6.7倍になった（図－１）．図－２に昭和３０年から５０年に至る人口階層別変化を示す．人口急増期の人口構成の偏りがわかる．この間，市は託児所、学校の建設に追われ社会資本の整備の余力がなかった．今日に至るまで，市域内では土地区画整理は１カ所も行われず，以前の農道そのままとおぼしき曲がりくねった狭い道路が用地買収方式によって建設された国道府道に不規則に接続しているのが現状である．



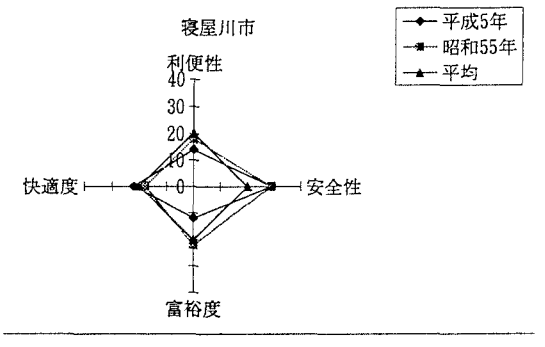
図－１　人口増加の推移

１．市勢の総合評価

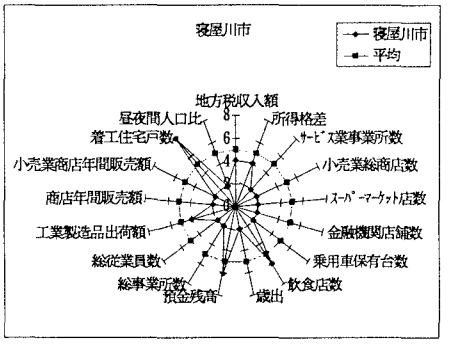
大阪府下３３都市に対する寝屋川市の相対的地位をみるため総合評価指標をつくってみる．安全性（刑法犯認知数等），富裕度（個人住民税負担額等），快適度（都市公園面積等），利便性（金融機関数等）（それぞれ人口一人当たり）を，３３都市間の順位により５段階に分け，得点を与える．これを総合して住み良さ指標をつくる．その結果を図－３に示す．大阪府下３３都市の住み良さ指標上位には，大阪狭山市，岸和田市，泉佐野市，高石市，豊中市があり，下位に柏原市，寝屋川市，交野市，大東市，門真市が位置する．また全国の２０万から３０万の人口を持つ３２都市（釧路市，青森市，八戸市，盛岡市．．．佐世保市，宮崎市）と民力度の比較をしてみる．地方税収入額，所得格差，工業製造品出荷額，．．．商店年間販売額等１７指標について１人あたりの値を算出し，３２都市を５ランクに分け得点与えた．３２都市中の寝屋川市の民力の相対的地位を表すグラフを図－４に示す．総合順位では，甲



図－２　人口構成の推移



図－３　住み良さ指数



図－４　民力度

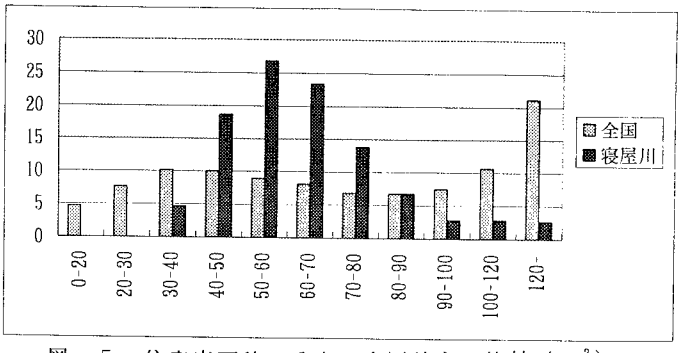
府市，福井市，松本市，高崎市，前橋市が位置し，下位に茅ヶ崎市，越谷市，明石市，寝屋川市，加古川市が位置する．

２．市街の現況

図－５に寝屋川市の住宅床面積の分布と全国値の比較を示す．狭小住宅の多いことがわかる．現在，主として都市計画基礎調査資料をデータとして用い，市街地の現況，開発経過をARC/INFOで表現している．写真－１は町丁目ごとの平均住宅床面積の分布を示す．写真－２は人口密度の分布を示す．

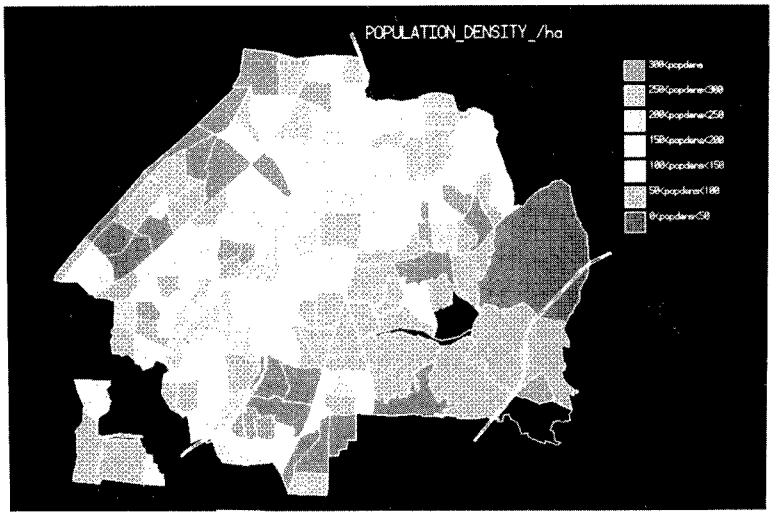
人口密度，住宅床面積，建築構造の論理積をとると問題地区が浮かび上がってくる．府道京都守口線（旧国道１号線）と国道１７０号線の間に狭小住宅が分布していることがわかる．また，古い狭小な中層公営住宅が周辺部に散在している．東北方の丘陵地帯には比較的良好な住宅地区が存在する．

ひとたび震災の起こったときのひどさは，神戸の比ではないことが予想される．



図－５　住宅床面積の分布：全国値との比較（ｍ^2）

写真－１　平均床面積の分布



写真－２　人口密度分布